

令和4年第1回庄原市議会定例会

一般質問通告者 及び 質問事項

3月14日・3月15日

質問順位

【代表質問】

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 地域政党きずな庄原議員団 | (五島誠) |
| 2. 結 | (坂本義明) |
| 3. 市民の会 | (宇江田豊彦) |
| 4. 日本共産党 | (谷口隆明) |
| 5. 里山みらい会議 | (政野太) |

【個人質問】

- | | |
|----------|---------|
| 1. 國利知史 | 2. 横路政之 |
| 3. 松本みのり | 4. 林高正 |
| 5. 前田智永 | 6. 桂藤和夫 |
| 7. 福山権二 | |

庄原市議会

令和4年3月定例会 一般質問

【 代表質問 】

順位	会派名 (質問議員)	質問項目	ページ
1	地域政党きずな 庄原議員団 (五島 誠)	令和4年度施政方針について	1
2	結 (坂本義明)	庄原市における林業政策について	4
3	市民の会 (宇江田豊彦)	2022年度施政方針について	5
4	日本共産党 (谷口隆明)	2022年度予算とその執行について	7
		水田活用交付金事業の見直しについて	
		埋設除草剤の確実な撤去を	8
5	里山みらい会議 (政野 太)	市民に見えるDX (デジタルトランスフォーメーション) 化の推進を	9
		都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画について	10

【 個人質問 】

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	國利知史	本市における人口減少対策について	11
2	横路政之	シビックプライドについて	13
		通学路の安全確保について	
3	松本みのり	島根原子力発電所で重大事故が起こった際の対応について	14
4	林 高正	定員適正化について	15
5	前田智永	コロナ禍における学校のICT環境の整備と活用について	16
		5歳から11歳を対象とした小児ワクチン接種について	17
		庄原ファンクラブ (仮称) による移住定住促進について	18
6	桂藤和夫	本市へのIターン・Uターン者の転入促進について	19
7	福山権二	小学校就学に関する制度について	20

一般質問日程 3月14日(月) 代表質問・個人質問(1)

3月15日(火) 個人質問(2~7)

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	五島 誠
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
1. 令和4年度施政方針について	<p>令和4年第1回定例会初日、当初予算案の上程に当たり、木山市長より施政方針として市政運営の一端が述べられた。そのことについて、地域政党きずな庄原議員団として以下の3点について所見を伺う。</p> <p>(1) 施策方針の中で、「コロナ禍後の社会生活の変化も視野に入れつつ、デジタル化による暮らしの質の向上や地域の脱炭素化を推進し、次世代に豊かな自然を繋ぐ取り組みにも目を向ける」と述べられた。</p> <p>このことは非常に大切であると我々も共感するところであるが、この「コロナ禍後の社会生活の変化」とは、どのような社会状態を想定されているのか伺う。また、その社会へ向かうためにどのような思いで、本市として何をすべきなのか伺う。</p>				市長

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	五島 誠
項目		質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 令和4年度施政方針について	(2) デジタル化の取り組みについては、庁内におけるデジタル技術活用を一元的に統括する部署を設置し、デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進するとともにRPAの運用拡大など全庁的な業務改善を進めると述べられたが、その庁内DXをいかに推進していくのか。また、市域のデジタル化などテクノロジーの活用による暮らしの質の向上をいかに進めていくのか、人材育成や外部人材の活用、推進組織体制も含めて所見を伺う。			市長	

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	五島 誠
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 令和4年度施政方針について	<p>(3)「生活交通の充実」については、「M a a S実証運行結果を踏まえ」と述べられている。</p> <p>本市では2019年から2021年にかけて、実証運行の事業に官民で取り組みを進めているが、これを本格運用することで、地域の現状やニーズに応え、効果的・効率的な生活交通の充実、ひいては都市計画に組み込み、交通網の再構築、地方交通の再興、さらには脱炭素化へ向けた取り組みなど、諸問題の解決に寄与していかなければならないと考える。</p> <p>令和4年度におけるM a a Sの取り組み、その後の本格運用について所見を伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	2	会派名	結	質問者	坂本 義明
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
1. 庄原市における林業政策について	<p>本市の総面積の約 84%を占める森林では、昭和 30 年代から植林が進められ、現在は、8 齢級から 13 齢級の利用期に達した森林資源が充実している。</p> <p>これらを活用し、儲かる循環型林業を推し進めるため、市は、「22 世紀の庄原の森林づくりプラン」を策定し、取り組みを進めようとしている。</p> <p>プランの目指す姿にあるように、「環境に貢献する持続可能な林業」「経営が成り立つ自立した林業」そして「みらいを担う人を育む林業」を進めるためには、植林から伐採、加工、流通といった、総合的な取り組みを市内で完結できる体制が必要と考える。</p> <p>そこで、本市における林業政策について次の通り伺う。</p> <p>(1) 森林環境譲与税を利用した政策の現状と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 林業従事者の育成について、どのように考え、取り組まれようとしているのか伺う。</p> <p>(3) 庄原産材の有効利用のため、木材加工企業の誘致を積極的に行う必要があると考えるが、見解を伺う。</p>				市長

【代表質問】

順位	3	会派名	市民の会	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 2022年度施政方針について	<p>(1) 市長は、施政方針演説において「本市の最重要課題は人口減少対策であり、これまでも長期的な視点に基づき、総合的な施策展開をしてきた。その結果、移住支援施策を活用した定住者が増加するなど、一定の成果は現れているものの、依然として人口減少の進む現状は、大変厳しい。」との認識を明らかにしている。</p> <p>併せて「10年先のまちづくりを見据え、人口減少対策の取り組みを進めるため、外部有識者である人口減少対策戦略プロデューサーを交え、市内の人口減少対策戦略本部による検討を踏まえ、本市の魅力を知ってもらい、そして生活の場として選んでもらうための施策について、これまでの取り組みに加え、新たな事業も含め展開していく」とされている。</p> <p>そこで、これまでの取り組みの成果と課題をどのように認識され、新たな事業につなげようとされているのか伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	3	会派名	市民の会	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 2022年度施政方針について	<p>(2) 移住定住を進める上で最も効果が得られると思われるのは「経済活動が活性化し、これに伴い人口が拡大すること」であると考えるが、短期間に経済成長を成し遂げることは困難であり、本市誕生以来、取り組んできたものの、十分な成果を出せていないのが現実である。</p> <p>併せて、市長は、就任以来一貫して「やっぱり庄原がいちばんええよのう」を提唱され、絆が実感できる自治協働のまちづくりをめざして、施策を進められてきたと認識している。</p> <p>これまでの経過を踏まえ、即時的な効果を目指すなら、地域が、自ら解決すべき課題を明確にするとともに、本市の積極的施策展開をもとに、自治振興区を中心とした「自治協働のまちづくり」の中心的課題として、移住定住に主体的に取り組むことが大切であると考えるが、市長の見解を伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	4	会派名	日本共産党	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 2022年度予算 とその執行に ついて	<p>施政方針を受けて新年度事業が開始される。会派の2022年度予算要望でも述べたように、人件費比率などから見て、予算規模・事業規模に対して、職員数が不足しているのではないかと思われる。</p> <p>全体の奉仕者として、職員が生き生きと働けるような職場環境づくりが一番だと痛感するが、市長の現状認識を伺う。</p>			市長	
2. 水田活用交付 金事業の見直 しについて	<p>国は一方的に、水田活用の直接支払交付金 の見直しを進めようとしている。その内容は、</p> <p>①水路や畔があっても2022年から5年間、 水張りが行われない農地は対象外にする</p> <p>②多年生牧草は10アール当たり35,000円。 播種はせず、収穫のみを行う場合は10,000円 に減額する</p> <p>③飼料用米の複数年契約への支援金 (12,000円/10a)の廃止 などである。</p> <p>政府の減反政策に協力してきた農家に、一 方的な交付金のカットを押し付けるものであ り、その影響は大きいと考える。</p> <p>国に見直しをやめるよう求めるべきと考え るが、市長はどのように対応していく考えで あるか伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	4	会派名	日本共産党	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
3. 埋設除草剤の 確実な撤去を	<p>昨年3月議会において、総領町の国有林に埋められたままになっている除草剤「2・4・5 T系」の管理の徹底と撤去を国に求めるよう質問したが、その後、何の改善も図られていない。</p> <p>2月17日の衆議院予算委員会の分科会において、田村貴昭議員(共産党)の質問に対し、林野庁長官が「全国46カ所すべての埋設除草剤の撤去を念頭に取り組む」と初めて答弁した。現在、林野庁は全国4カ所で抽出調査をし、モデルケースとする構えである。</p> <p>撤去に至るスケジュールや手法などの情報を入手し、できるだけ早く撤去するよう国に働きかけることを改めて求めたいが、市長はどのように取り組む考えであるのか伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	5	会派名	里山みらい会議	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 市民に見えるDX(デジタルトランスフォーメーション)化の推進を	<p>本市は、令和3年3月に第2期庄原市地域情報化計画を策定し、デジタル化の推進の方針を定めた。さらには、市長の施政方針において、令和4年度に庁内におけるデジタル技術の活用を一元的に統括する担当部署を設置し、DX(デジタルトランスフォーメーション)化を推進するとし、全庁的な業務改善を積極的に進めるとした。</p> <p>あらためて、業務のDX化の目的を伺うとともに、DX化推進を計画的に実行するためには中長期的な視点による庄原市独自のDX推進計画の策定が必要と考えるが、市長の見解を伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	5	会派名	里山みらい会議	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
2. 都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画について	<p>市長は、施政方針において、10年先を見据えた地域のあるべき姿を描き、実現するための取り組みが必要であるとした。また、令和4年度の予算案では、第2期庄原市長期総合計画を踏まえ、庄原市都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画を新たに策定し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指し、都市機能の向上を図っている。</p> <p>本市に暮らす市民にとって、都市機能の向上は大変重要なことであるとともに、定住人口の維持に効果があると認識している。</p> <p>施政方針での発言を踏まえた両計画のめざす将来像について市長の見解を伺う。</p>			市長	

【個人質問】

順位	1	質問者	國利 知史	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 本市における人口減少対策について	<p>2010年の国勢調査では40,244人だった本市の人口も、2020年の国勢調査では33,633人まで減少している。</p> <p>死亡数が出生数を上回る自然減に加え、転出が転入を上回る社会減も続き、本市の最重要課題である人口減少の流れは今のところ止めることができていない。</p> <p>出生率を上げることや、転出者を抑える対策も必要であると同時に、移住者を増やすことも重要であると考えます。</p> <p>ここ数年の新型コロナウイルス感染症によって社会情勢や生活様式も変化し、リモートワークの普及により、全国どこにいても仕事ができるようになり、地方で豊かな暮らしがしたいという移住希望者や、ふるさと回帰の考え方を持った人も増えてきている。</p> <p>これらの状況を踏まえて、市長の見解を伺う。</p> <p>(1) コロナ禍及びコロナ収束後を見据えた、今後の移住対策について市長の見解を伺う。</p>		市長	

【個人質問】

順位	1	質問者	國利 知史	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 本市における 人口減少対策 について	(2) 移住を検討している人は、移住の条件として、住居、仕事、福祉の充実、住みやすさなどを挙げる方が多い。特に、子育て世代の移住希望者は、子育て環境を移住の条件の一つにする人も多い。本市の移住対策における、子育て環境の充実に向けた取り組みについて伺う。	(3) 人口減少対策は最重要課題であり、「オール庄原」で取り組む必要があるが、今年度導入された、人口減少対策戦略プロデューサー及び人口減少対策戦略本部の具体的な取り組みの成果や課題、今後の方針について伺う。	市長			

【個人質問】

順位	2	質問者	横路 政之	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. シビックプライドについて	シビックプライドとは、都市や地域に対する市民の誇りを指す言葉で、郷土愛や町自慢などの愛着を示す言葉と似ているが、地域に対する愛着を示すだけではなく、自分自身が関わって都市や地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心が内包されており、私たちの心に働きかける概念である。 本市においても、住民参加のまちづくり、地域コミュニティの活性化をさらに進めていくためには、地域に対する住民の誇りや自負心を喚起することが求められていると考える。 本市のシビックプライド醸成の取り組み状況について伺う。	市長				
2. 通学路の安全確保について	登下校中の交通事故により、児童生徒に死傷者が出るといった痛ましい事故が全国で頻発している。 本市においても、重大な事故が発生するかもしれない危険な通学路が、改善されないまま放置されている状況が見受けられる。 早急に改善すべきと考えるが、通学路における児童生徒の安全確保の取り組みについて伺う。	教育長				

【個人質問】

順位	3	質問者	松本 みのり	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1.	島根原子力発電所で重大事故が起こった際の対応について	(1) 中国電力島根原子力発電所で重大事故が発生した際には、本市においても松江市八雲地区から、6,700人余りの避難者を受け入れる計画となっている。 現在、島根県では、原子力災害時における広域避難計画の整備を前提に、原発再稼働容認に向けた動きが進んでいるが、本市における避難者の受け入れ計画と体制の現状について伺う。 ----- (2) 本市は、中国電力島根原子力発電所からの距離が、50kmから100km以内に入る地域であり、重大事故発生時には、場合によっては、屋内避難やエリア外への避難が必要となることも考えられる。 市民の命を守るために、避難に関する計画や考えはあるのか伺う。	市長			

【個人質問】

順位	4	質問者	林 高正	項目	質問の要旨	答弁を 求める者
1. 定員適正化について				<p>平成 18 年 3 月に「庄原市定員適正化計画」を策定し、5 年間にわたり定員適正化を進めた結果、平成 17 年度 667 名だった職員数は、計画最終年の平成 22 年度 587 名となり、目標の 598 名を上回る職員数の削減を達成した。</p> <p>さらに、平成 25 年 3 月、新たな定員管理の指標である「第 9 次定員モデル（一般市用）」が総務省から公表されたことを受け、平成 26 年 4 月 1 日を基準日に令和 3 年度までの目標職員数を定めた「庄原市定員マネジメントプラン（第 2 期定員適正化計画）」が策定され、その結果、令和 3 年の計画最終年には、目標 513 名を上回る 505 名となった。</p> <p>今回、2 月 14 日開催の議員全員協議会で示された資料によると、令和 4 年 4 月 1 日の実配置を 499 名で調整中とのことであるが、基本的な考え方に、「総職員数は減少し続けている。こうした状況に対し、確保可能な人員により、一層効率的な業務を推進するため、組織・機能の見直しを図る」としている。</p> <p>職員の業務多忙化が常態化してきているとの指摘もあり、市民の役にたつべき市役所の役割に、市民は満足している状態であるのかという疑問があるが、職員の定員適正化について、市長の考えを伺う。</p>	市長	

【個人質問】

順位	5	質問者	前田 智永	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1.	コロナ禍における学校のICT環境の整備と活用について	新型コロナウイルス感染症の流行が長期化し、アルコール消毒やマスク着用等、新しい生活様式が定着しつつあるが、未だに自粛や我慢の生活が続いている。特に子供たちにとっては、短く貴重な学校生活において、さまざまな行動制限や行事中止などにより、のびのびとした生活ができないことが、大変残念である。 感染症の発症や災害等の非常時、病気等をやむを得ず登校できない児童生徒への対応をどのように進めるかは、大きな課題といえる。 文部科学省や広島県では、「やむを得ず、学校に登校できない児童生徒等へ、ICT端末等を活用し、コミュニケーションを絶やさず、学びを止めないことが重要」としている。 本市では、児童生徒に対し、ICT端末が1人1台整備されていると聞くが、十分に活用されているのかわからないという声を聞く。 そこで、コロナ禍における学校のICT環境の整備とその活用について伺う。	教育長			

【個人質問】

順位	5	質問者	前田 智永	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
<p>2. 5歳から11歳を対象とした小児ワクチン接種について</p>	<p>現在、本市では、3回目のワクチン接種が進められているが、今後、5歳から11歳を対象とする小児ワクチン接種が予定されている。</p> <p>小児ワクチンの接種については、接種を心待ちにしている方がおられる一方で、接種させることに不安を感じている方や、接種に対する判断材料が少ないと感じている方もおられる。</p> <p>日本小児科学会では、小児に対するワクチン、特に変異株についてのデータは十分でなく、副反応症状の報告等もある。</p> <p>今後、本市において小児ワクチン接種を進める上で、接種は年齢を問わず任意であることや、接種の有無で誹謗中傷やいじめ等は許されるべきではないこと、保護者が判断するための正しい情報を市長自ら発信し、慎重に進める必要があると思うが、考えを伺う。</p>		<p>市長</p>	

【個人質問】

順位	5	質問者	前田 智永	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
				3. 庄原ファンクラブ（仮称）による移住定住促進について	<p>これまで、人口減少対策や移住定住促進については、市民や企業、地域団体等とともに、さまざまな事業を展開され、それぞれの事業について成果や課題等の検証が行われてきた。</p> <p>市長自ら、積極的に人口減少対策について協議され、令和4年度からの新規事業として、「庄原ファンクラブ（仮称）」を設立されると伺った。</p> <p>これまで以上に市民や企業、地域団体等が関わって、人口減少対策を盛り上げるためには、これまでの事業の検証がどのように反映されるのか、将来的にどのようなビジョンを持っているのか、しっかりと市民に発信すべきと考える。</p> <p>この事業がどういったものなのか、また、誰がどこでどのように関わっていくもののかなど、市長の考えを伺う。</p>	市長

【個人質問】

順位	6	質問者	桂藤 和夫	項目	質問の要旨	答弁を 求める者
1. 本市へのIターン・Uターン者の転入促進について	<p>人口減少に伴う過疎化と少子高齢化等が進む自治体において、生活インフラや教育、福祉サービスを将来にわたって維持できなくなることが懸念されている。市民の生活を維持していくためには、財源も必要であるが、最も必要であるのは担い手であると考え。その担い手を増やす方策として、Iターン・Uターンによる人口増が考えられるが、そのことについて、次のとおり市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 人口減少対策戦略本部を立ち上げて、人口減少対策に取り組まれているが、Iターン・Uターンについての現状と課題をどう認識し、取り組まれていく計画があるのか、見解を伺う。</p> <p>(2) 移住につながる可能性の高い関係人口を増やす取り組みは重要であると認識している。</p> <p>そこで、新年度に向けた施政方針において、10年先を見据えた人口減少対策への取り組みとして、既存の「ふるさと応援団」と「帰ろうや倶楽部」を再編した「庄原ファンクラブ」を設立するとあったが、これまでのイベント等を通じた交流と何が異なるのか、その具体策と効果、目標設定について伺う。</p>		市長			

【個人質問】

順位	7	質問者	福山 権二	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
				1. 小学校就学に関する制度について	庄原市教育委員会は、障害のある児童生徒等の就学先の決定について、基本的にどのように対応しているのか。 特に、小学校就学前の児童に関しての対応について伺う。	教育長